

公立大学法人山口県立大学 附属 郷土文学資料センターだより

甦る嘉村磯多

多田美千代（嘉村磯多顕彰会顧問）

存続が危ぶまれていた磯多生家は多くの念願が叶い、山口市によって改修され、平成22年11月にオープンしました。

これからは嘉村磯多の顕彰と地域の活性化を推進する施設としての活用が期待されるところです。開設に当たって、市は広く親しまれる施設となることを願い、生家の愛称を公募。273点の応募より山口市の蔵重千恵子さんの「帰郷庵」が選ばれました。これはふるさとを愛して止まなかった磯多の生家を記念すると共に、訪れた人々が故郷に帰った気持ちで寛げる家、として選ばれたものです。

「帰郷庵」開設以来4月末までの時間利用者は、11件、202名、宿泊利用者は16件、91名、その他、見学者も跡を絶たないようです。

予約申込み・利用等についての問い合わせは、山口市仁保地域交流センター内嘉村磯多生家の会（受付専用電話・083・929・0433）。

ところで、生家改修工事中に思わぬ発見のあったことも特筆すべきこととしてお伝えしておきたいと思います。

一つは、仏壇の抽出しから発見された磯多の父若松宛の手紙七通です。差出人は、磯多の先妻静子、後の妻チトセ（3通）、若松の末娘イクヲ、イクヲの夫栄、と磯多の5人です。

静子の手紙は、協議離婚成立後の昭和2年に書かれたものと推定されます。

他の4人の手紙は磯多の病気にかかわるものですが、特に栄の手紙は義兄を見舞った際の様子を岳父若松にしたためたもので、誠実な人柄を窺わせます。7通の内、最後の磯多の手紙は昭和4年1月15日の消印が認められ、〈一生懸命に保養につとめています。お金は**いりません**。送ってはイケません。どうかお金を送って下さいますな〉と重ねて念を押しています。父を心配させまいとする精いっぱい**の**思いが伝わるものです。

もう一つは、生家の襖の下張より習作と目されるものが発見されたことです。和紙に毛筆で書かれた作品14枚と、破損した作品の断片を集めた3枚分の計17枚でした。



▲ 嘉村磯多(33才)

「しのび涙」の見出しではじまる内容は、余命3・4ヶ月とされる三浦家の娘良子を中心としたものですが、「枕に散る涙」（二）、「春の便り」、「慰安」（三）など各見出しの内容が繋がらない点もあって、それらが一貫した作品の小見出しであるかどうかは不明です。

この作品が磯多のものか否かの検証につき、市の要請を受けて、山口県立大学附属郷土文学資料センター所長稲田秀雄教授、中原中也記念館学芸員池田誠氏と筆者の3名で当たりました。作品は一読して早い時期のものと思われ、筆跡から磯多のものに間違いなさそうだとの結論に至りました。

二つの発見は生家の改修工事の賜物であり、数少ない磯多の資料として貴重なものと思われます。今後、これがさらなる磯多研究にどのように発展するのか興味深いところです。



▲ 嘉村磯多生家（当センター蔵『嘉村磯多文学碑除幕記念アルバム』より。明治初年に建てられた）

嘉村磯多生家『帰郷庵』で、ふるさと山口の食体験

園田純子（山口県立大学看護栄養学部栄養学科講師）

郷土の私小説家「嘉村磯多」の生家は、嘉村磯多の顕彰と自然体験や農業体験等のできる施設『帰郷庵』として、昨年秋にオープンしました。磯多に関する資料の展示のほか、古民家の和の空間を体感できる囲炉裏やかまど、五右衛門風呂があり、見学はもちろん、時間利用や宿泊利用をすることもできます。

現在、『帰郷庵』ではいろいろな体験メニューが開発されているところですが、当施設の指定管理者と仁保むらづくり推進協議会が中心となって、地元の食材を使った地域に伝わるさまざまな食の体験イベントも予定されています。このたび、本学看護栄養学部栄養学科調理学研究室では、専門研究を受講している学生

が4月より10月にかけて地元の方とともに『帰郷庵』での食体験イベントに参加し、食分野の体験メニューとして食育プログラムの開発とその活用に取り組むことになりました。

地域の食生活は、そこに住む人々によって生まれ、次の世代へと引き継がれていくものです。また、地域の伝承料理は、その土地の特産物を利用し、気候風土に合った先人の知恵がちりばめられており、それを知ることは、地域の食文化・伝統文化を学ぶ機会ともなります。仁保地区の伝承料理や食文化を、地元そして県内、県外の多くの方々に知っていただけるよう願っています。さらに、磯多の小説から仁保の食に関する知見を得、プログラム作りに反映できればと考えています。

4月23日には、第1回目の食体験イベントとして「よもぎ餅と田舎のバラ寿司作り」が開催されました。毎月の食体験イベントの様子は、11月まで『帰郷庵』と道の駅『仁保の郷』に展示しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

食の体験イベントは、春夏秋冬1年を通じて行われます。みなさま、嘉村磯多生家『帰郷庵』で、是非ふるさと山口の食を体験してみませんか？



▲ 現在の帰郷庵

平成23年度 山口県立大学公開講座 やまぐちの文学

会場：平生町中央公民館 時間：13：30～15：00 受講料：無料

月 日	内 容	講 師
5.28 (土)	瀬戸内の文学 -国木田独歩を中心に-	山口県立大学名誉教授 福田百合子
6. 4 (土)	江戸時代の小説に描かれた大内氏	当センター研究員 木越 俊介
6.11 (土)	与謝野鉄幹と林滝野	当センター研究員 加藤 禎行
6.18 (土)	鷺流狂言の世界	当センター所長 稲田 秀雄

寄贈図書 (2010年10月～2011年5月)

河村正浩『自解150句選』(やまびこ出版、2010)

山口県立大学国際文化学部『大学的やまぐちガイド-「歴史と文化」の新視点』(昭和堂、2011)

寄贈雑誌 (2010年10月～2011年5月)

『ほうふ図書館だより』No.265～269(防府市立防府図書館)・『あらつち』第61巻12号(665)、第62巻1～4号(666～669)(あらつち社事務局)・『山彦』VOL.101～103(山彦俳句会)・『ふるさと紀行』平成22年冬の号(第124号)、平成23年春の号(第125号)(ふるさと紀行編集部)・『文芸山口』第295、296号(山口県文芸懇話会)・自由律俳句クラブ『群妙』第8号・『其桃』第794～797号(其桃発行所)・『廳』86号(廳事務局)・『和海藻』26号(豊北郷土文化友の会)・『中原中也記念館 館報』16(中原中也記念館)

編集後記

▼センターだより17号をお届けします。▼今号は、前号予告のとおり、嘉村磯多の特集を組みました。特に昨年オープンした「帰郷庵」は、保存と活用という両面から積極的に取り組まれた新たな試みと思います。順調な滑り出しとのことで、今後のいっそうの発展を期待します。▼磯多研究の第一人者であり、このたびの帰郷庵オープンにもご尽力なされた多田美千代氏が、これまでの道のりや新たな発見についてご報告をしてくださりました。磯多の新たな一面が掘り下げられることになることと思います。▼本学看護栄養学部栄養学科の園田純子氏には、ふるさと山口の食体験として、帰郷庵における活動をお寄せいただきました。とてもおいしそうな取り組みで、ぜひぜひ多くの方に足を運んでいただきたく思います。▼次号は通常通り、11月刊行予定です。(K)



■編集発行：公立大学法人山口県立大学附属郷土文学資料センター (〒753-8502 山口市桜島3-2-1)
TEL. (083) 928-0211 FAX. (083) 928-2251
■発行日：2011(平成23)年5月31日